



学校と地域をつなぐために

毎年行っていた「わくわくふれあいフェスタ in 宮原小」が、コロナ禍で実施できませんでした。その代替として11月20日(金)に「校区ウォークラリー」を開催しました。「校区ウォークラリー」とは、各グループに別れた児童が、コマ図(分割地図)をもとにチェックポイントにした宮原小校区にある史跡や文化財・施設などを見学していくものです。CS委員が自分の足で校区を調べて、それらを回る8コースを設定し、コマ図やチェックポイントに関する問題を作成しました。

当日は、PTAの地区委員や交流委員会の皆さんに手伝ってもらい実施しました。施設見学の際は、CS委員が依頼した施設の職員さんやCS委員自らが説明を行いました。宮原小CSが主体となって、PTAの皆さんと連携しながら活動することができました。児童は、地域のよさを再発見した一日となりました。



11月7日(土)に「CSの日 防災教室」を氷川中学校区学校運営協議会主催で行いました。各地区での分散開催とし、CS委員、区長、民生委員・児童委員、消防団員、PTA地区委員、学校職員が協力して、氷川中生徒と宮原小児童と一緒に防災・減災について学習しました。「登下校中に地震が起きたら」、「地区の危険箇所」、「子ども110番の家」、「防災〇×クイズ」などを参加したメンバーで役割分担して、進行や説明などを行いました。地区毎に実施したので、防災や減災についてより身近に捉え、自分事として考えることができました。児童生徒が地域とつながることによって、災害への備えに効果があることを実感した取り組みとなりました。



「好きです宮原!」の心情を育むCS活動

宮原小CSが主体となり、児童・教職員・保護者・地域をつなぐ取り組みを実施することで、「地域とともにある学校づくり」、「将来の地域の担い手を育む学校づくり」が着実に進んでいます。

また、「好きです宮原!」を合言葉に、「地域を大切に作る心」、「地域の一員として協力する態度」が宮原小の児童に育まれています。これからも地域の皆さんのお声掛けをよろしくお願いいたします。

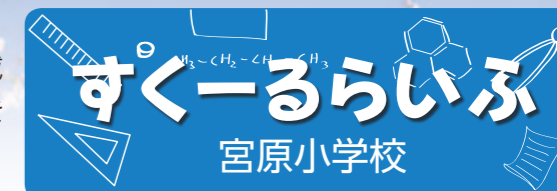


▲場所を整え、心を育てる花壇作り

▲正月文化を伝える門松作り

宮原小では、学校と地域が一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」をめざしてコミュニティ・スクールの取り組みを推進しています。

学校運営協議会を設置し、学校運営にいろいろなご意見をいただきながら、地域の皆さまや保護者の皆さまと力を合わせて、子どもたちの豊かな心の育成や学力の向上に取り組んでいます。



宮原小学校におけるコミュニティ・スクール(宮原小CS)の取り組み

宮原小CSの取り組みの方針

宮原小CSでは、学校と地域住民が連携・協働して、学校教育目標である「豊かな心を持ち、自ら考え行動し、より良く生きようとする宮っ子の育成」の実現のために、以下のことに取り組んでいます。

- ① 子どものよさを認め、ほめ、励まし、地域の一員として活躍する体験をさせる
- ② 将来を担う人材育成を主眼に、子どもも大人も共に学び育ち合う活動に取り組む
- ③ 学校を核として、『宮原のよさ(自然・食・文化・伝統・歴史・共生)』を学び、「愛校心」や「郷土愛」を醸成するとともに、それを基盤として自分を見つめさせ自信を持たせる

子どもたちの豊かな心と望ましい生活習慣づくりのために

子どもたちの規範意識を育て、積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を育てるために、あいさつ運動一斉行動の日(毎月15日の朝)に、CS委員や保護者が通学路に立って子どもたちとあいさつや言葉を交わしています。正門で、「校門一礼」にも取り組んでいます。



子どもたち一人ひとりの学力を保障するために、CS委員や読み聞かせボランティアの皆さんが学習支援を行う「輝塾」を、毎週木曜日に図書室と6年1組教室で取り組んでいます。

また、PTAと連携し、家庭学習の習慣化や望ましい生活習慣の習得を目指す「ノーテレビ・ノーメディアデー」に取り組んでいます。これは、保護者による朝の校門でのあいさつ運動の際に、児童は自分が挑戦するコースをタブレットで選んで宣言します。その当日は、テレビやゲームではなく学習や読書、家族との会話などをして1日を過ごすことで、望ましい生活習慣づくりや家族の団らんのきっかけづくりにしています。

